



だより
7月号

地域情報版

熊本市配布文書17号
令和7年（2025年）6月15日発行
発行者：秋津まちづくりセンター・公民館
熊本市東区秋津3丁目15-1 電話368-2200
akitsumachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp



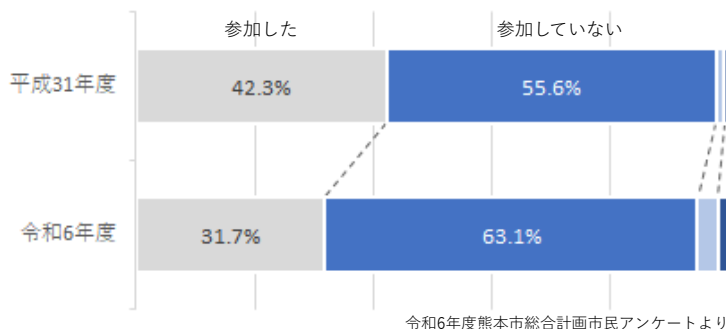
熊本市ホームページ

あさひばだよりは熊本市HPにも掲載しています

変わりつつある地域のカタチ

地域の活動に参加する人の割合は、活動が大幅に制限されたコロナ禍を契機に大きく変化しています。コロナ禍においては、感染対策のためにイベントや集まりが中止され、人とのつながりが少なくなりました。また、外出を抑える人が増えたこと、生活スタイルの変化もあり、地域との関わりが以前よりも少なくなっているのが現状です。コロナ禍が明け、様々な活動が再開されていますが、地域活動を支える側の人材がいななどの理由から、地域活動（見守りや祭りの開催）の停滞が懸念されています。

地域活動に参加した市民の割合



町内自治会、なぜ必要？

町内自治会とは、同じ地域に住む人たちにより自主的に組織され、地域の困りごとをお互いに協力し合って解決し、豊かで住みよい地域をつくるために様々な活動を行っている団体のことです。

なぜ自治会は必要なのでしょうか。

まず、自治会が担っている活動について考えてみましょう。

困りごとの相談対応、自主防災活動、災害時の対応、夜間パトロール、防犯灯の設置・維持管理、交通安全指導、交通安全運動、一人暮らしのお年寄り訪問、敬老会、赤い羽根募金、歳末助け合い運動、公園やごみステーションの清掃、資源物回収、リサイクル活動、害虫駆除、献血運動、各種スポーツ大会、夏祭り、文化祭、広報紙の作成、行政や関係機関などからのなど各種依頼など、多岐にわたります（※自治会によって活動内容は異なります）

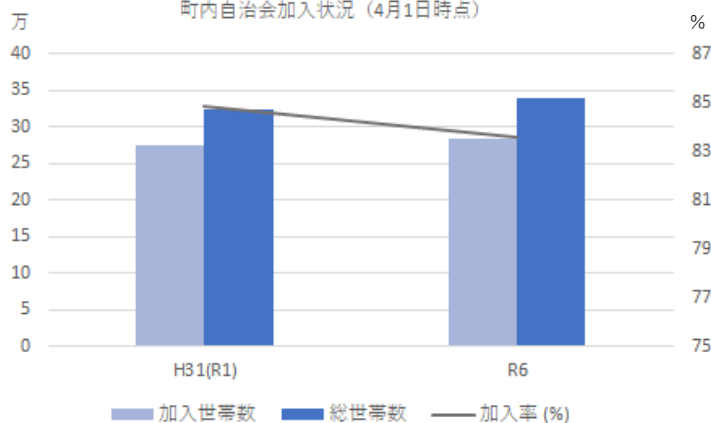
自治会では、地域住民からの会費や各種補助金を大切に活用して、皆さんが住みよい街にするための様々な活動をしています。皆さんが参加したことがある活動はどのくらいあるでしょうか？



地域活動の要、町内自治会

昭和42年4月に現在の町内自治会が発足、令和6年4月時点で913の町内自治会があります。加入率は減少傾向にありますが、全世帯の83%にあたる世帯の皆さんは、自治会に加入しています。

町内自治会加入状況（4月1日時点）





地域の活動での困りごと

自治会の役員の方に、「地域活動をしていて困っていること」をお尋ねしました。

01 人材がない

「役員になってくれる人がいない」
役員になることが負担に思われる方もおられ、なかなか引き受けてくださる人がいないようです。
また、若い世代の参加が少なく、役員の年齢が70代以上など高齢化しているのも現状です。

02 ごみの問題

違反ごみの処理、ごみステーションの新設など、ごみの問題に関する住民の方からの相談は頻繁です。
役員の皆さんは、住民の皆さんと話し合いを重ね、行政にも相談・要望しながら対応されています。

なぜ、そこに住みたいと思いましたか

人によって、理由は様々だと思います。「職場や学校が近いから」、「スーパーや病院が近くにあるから」、「まちがきれいだから」、「人が優しいから」、「犯罪が少ない街だから」…。

つまるところは「その街が住みやすい」からという理由が多いのではないかと思います。住みやすい街を作っているのは、もちろんインフラなどの施設整備（ハード面）もありますが、地域の活動（ソフト面）もより重要になってきます。

「住みたい」「住み続けたい」と思う人々が集まって、「住みやすい街」をつくっていく。それが、地域活動＝町内自治会活動なのだと思います。

人々の思いと行動が「住みやすい街」をつくっていく



あなたの“ちょっと”が地域を変える...のかも

近所の人と挨拶を交わしてみる、児童の登下校中に散歩してみる、美化作業に参加してみる、お祭りやイベントで手伝いをする、書類を作るのが得意だから運営を手伝ってみる、など。自分のできることを“ちょっと”やってみませんか？

1人の“ちょっと”が、たくさん集まれば、地域の大きな力になるはずです。

地域活動の情報は、回覧板や地域の掲示板などに情報が掲載されています。ぜひ、ご確認ください。参加したいけど、どこに問い合わせれば良いか分からない場合は、秋津まちづくりセンターへおたずねください。(368-2200)

